

「加入光ファイバに係る接続料の算定方法 の在り方について」に対する意見



2015年6月16日
KDDI株式会社

※本資料中では敬称を省略しております。

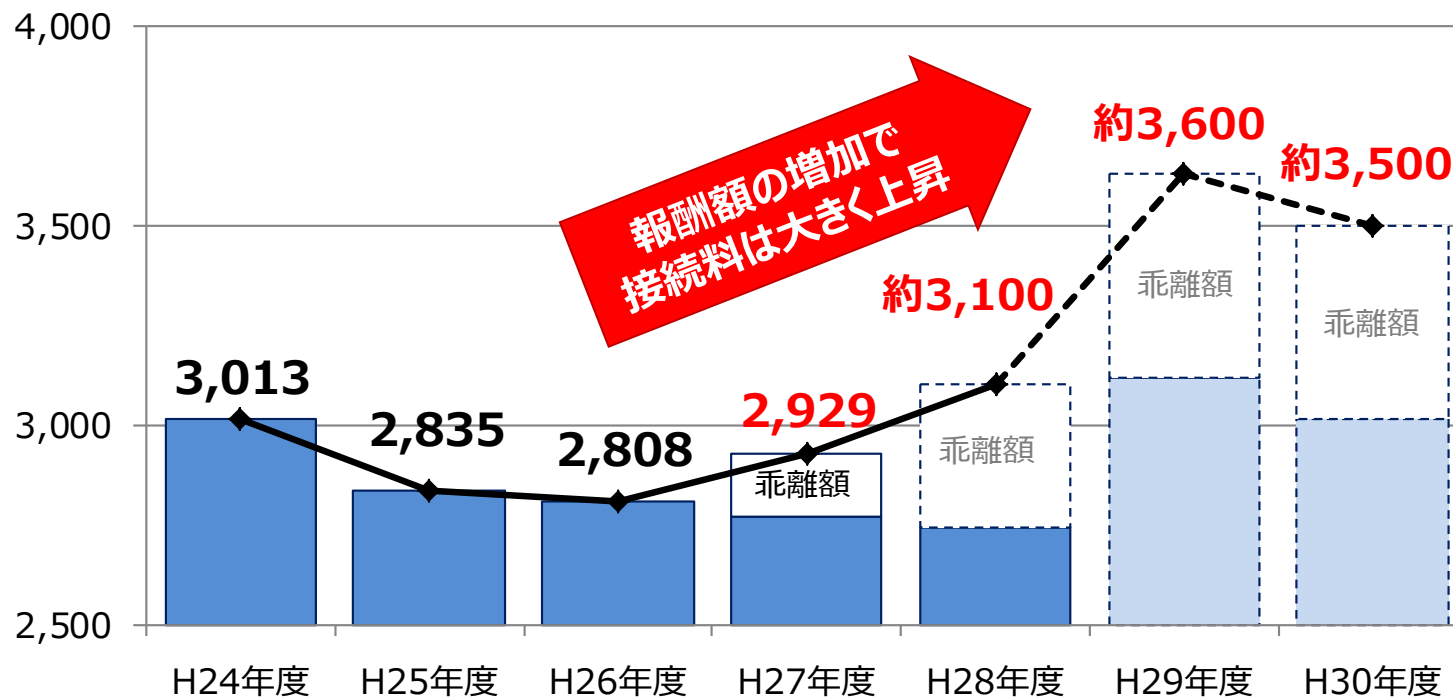
「接続」による競争消滅の危機

接続料の
継続的な上昇

報酬額増加

接続料の
急激な変動

乖離額調整



*シェアアクセスの方式の光信号主端末1回線当たりの月額接続料の推移 (単位: 円)

*接続料はNTT東 (タイプ1-2。実績原価方式で算定される局外スプリッタの接続料を含む) の場合

*H28年度の乖離額及びH29年度以降の接続料・乖離額はKDDIが推計して作成

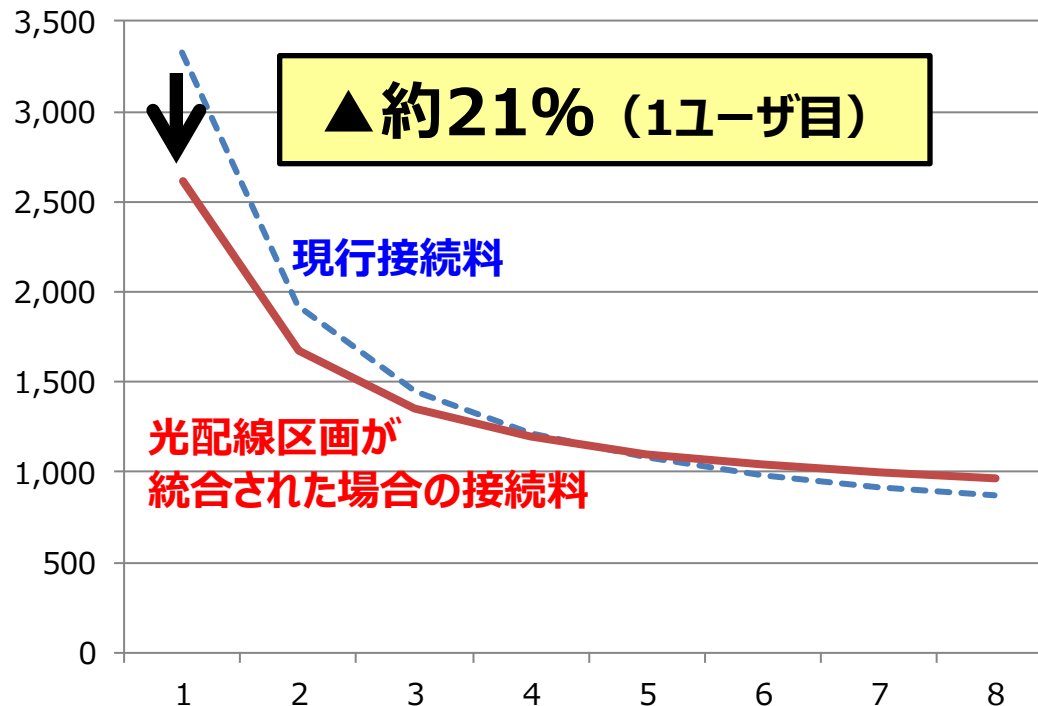
光配線区画の拡大効果

光配線区画の
拡大効果



競争政策上
考慮する必要性

1 ユーザ当たりの接続料



*平成26年度NTT東の接続料で算定（主端末回線：2,808円、分岐端末回線：271円、屋内配線：185円、回線管理運理費：61円）

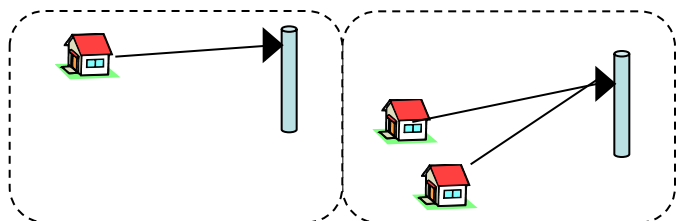
*区画統合率：67.5%、統合時の分岐端末回線：478円で算定

自己設置の事業者との競争維持

光配線区画の拡大効果は
光配線区画の広さに応じたコスト体系



自己設置の事業者との競争は阻害しない

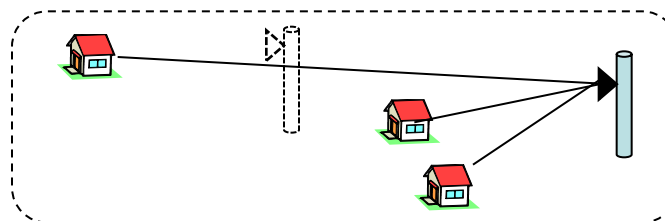


光配線区画の広さ：狭い

主端末回線：多い、分岐端末回線：短い

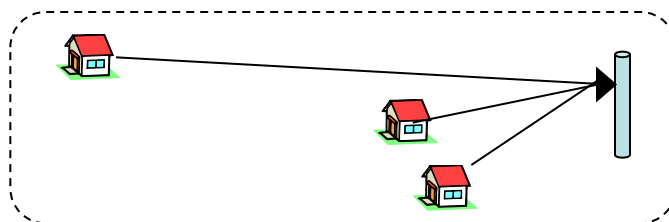


拡大



光配線区画の広さ：広い

主端末回線：少ない、分岐端末回線：長い



光配線区画の広さ：広い

主端末回線：少ない、分岐端末回線：長い

広さが同等なら
コスト体系は同等

未利用芯線の有効活用

未利用芯線の
有効活用



光の利用率向上

追加投資は
ほぼ不要



コストを増加させず、利用芯線が増加
接続料の低減に寄与
(既存事業者にもメリット)



光の利用率向上に資する競争の促進

需要の発生形態

未利用芯線

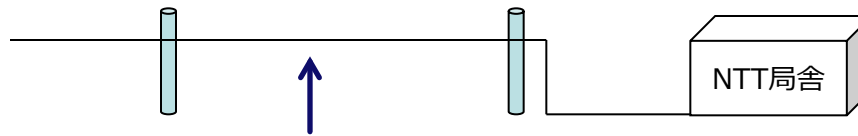


新たな芯線需要の
発生都度、**需要に応じ**
て充当されるもの



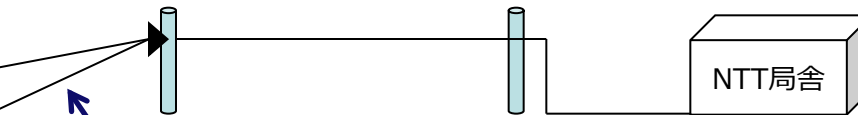
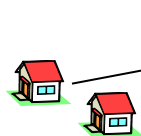
シングルスター方式は**芯線単位**で利用申請
シェアドアクセス方式は**分岐(ユーザ)**単位で利用申請

シングルスター方式



芯線の利用用途や収容ユーザ数等を問わず、接続事業者は**芯線単位**で利用申請。

シェアドアクセス方式



接続事業者は、**分岐(ユーザ)単位**で利用申請。芯線が使われるかどうかは、需要(1ユーザ目、9ユーザ目、...)に応じて決まる。

接続料算定の需要の考え方

接続料算定の**需要**の考え方



シェアドアクセス方式



**ユーザ数に応じて
芯線が利用される前提**

(参考) H26年4月9日付けで認可された平成26年度～平成28年度接続料算定の申請概要より

①フレッツ光

フレッツ光の契約数について、NTT東日本、NTT西日本ともに平成25年度事業計画と同数の毎年度50万契約の純増と予測している。

フレッツ光・ファミリータイプ(シェアドアクセス方式に相当)については、8ユーザまでごとに1芯を使用するものとし、各年度末の予測契約数に対し必要な光ファイバ芯線数を算出している。

未利用芯線の費用負担方法

需要の
発生形態

接続料算定の
需要の考え方

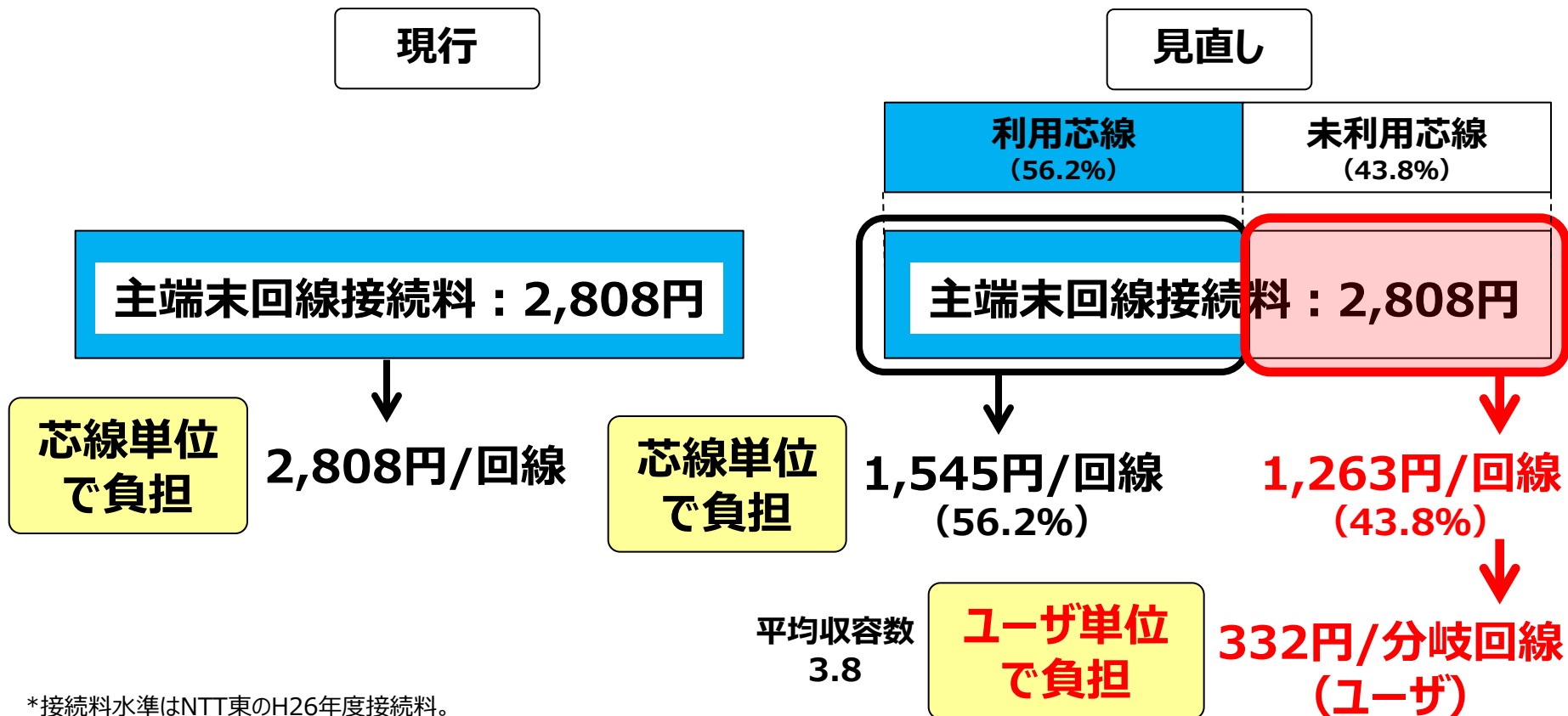


「ユーザ単位」で費用負担する考え方も
社会的経済的には**一定の合理性**がある

未利用芯線の費用負担方法の見直し手法

シェアドアクセス方式の主端末回線接続料

未利用芯線分をユーザ単位で負担



*接続料水準はNTT東のH26年度接続料。

*利用芯線の割合及び平均收容数は、H26年度接続料算定時のH26年度末NTT東見込値。

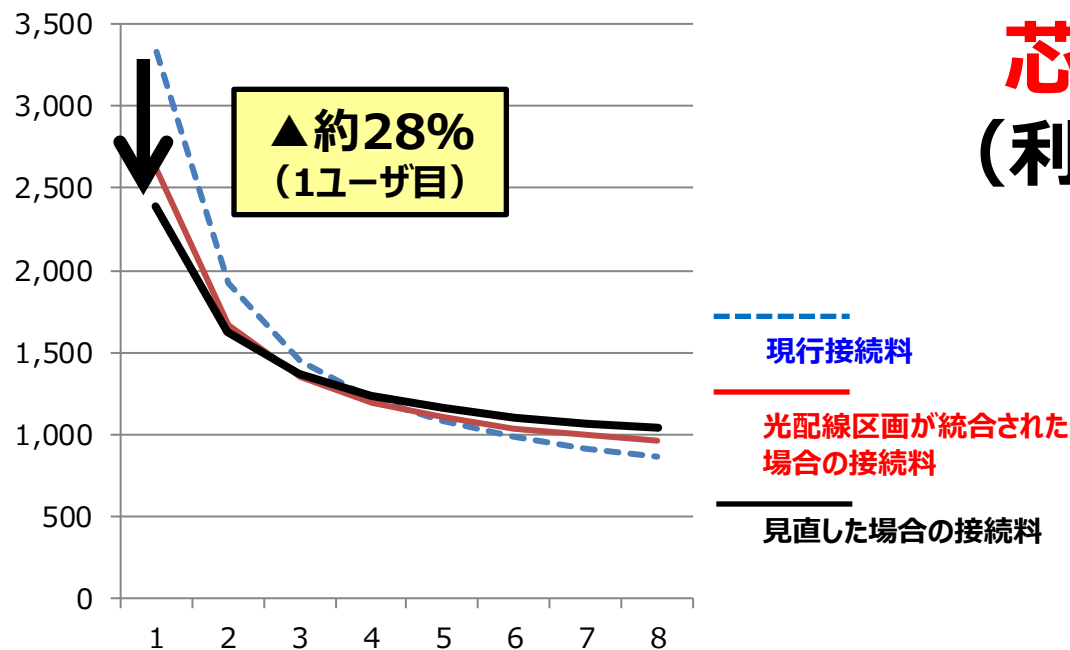
費用負担方法の見直し効果

1ユーザ目の
接続料負担軽減



新規参入の促進
エリア拡大インセンティブ

利用芯線の割合：56.2%



芯線の利用率向上
(利用芯線の割合増加)

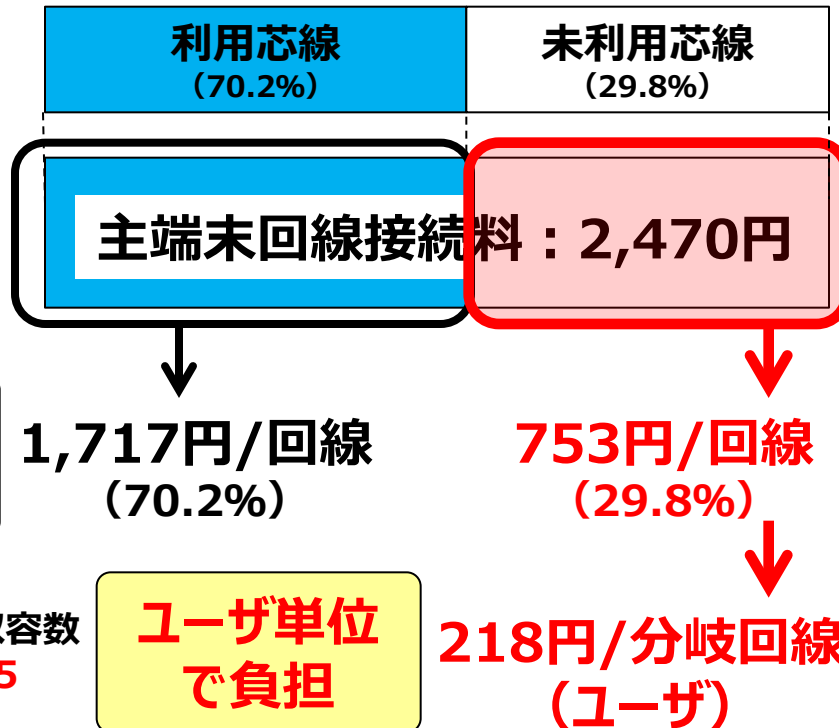
芯線利用率向上の効果

芯線利用率
の向上



接続料水準の低減化

收容数向上インセンティブ



芯線単位
で負担

1,717円/回線
(70.2%)

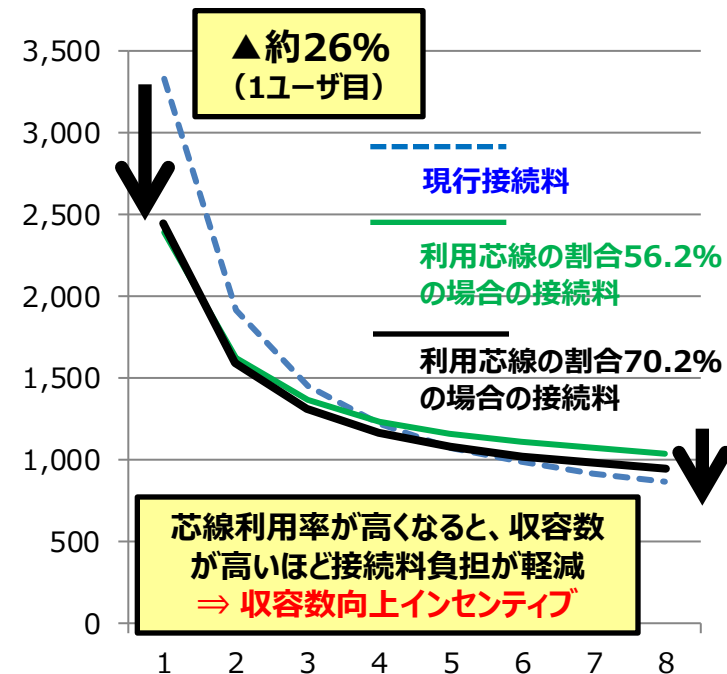
平均收容数
3.5

ユーザ単位
で負担

753円/回線
(29.8%)

218円/分岐回線
(ユーザ)

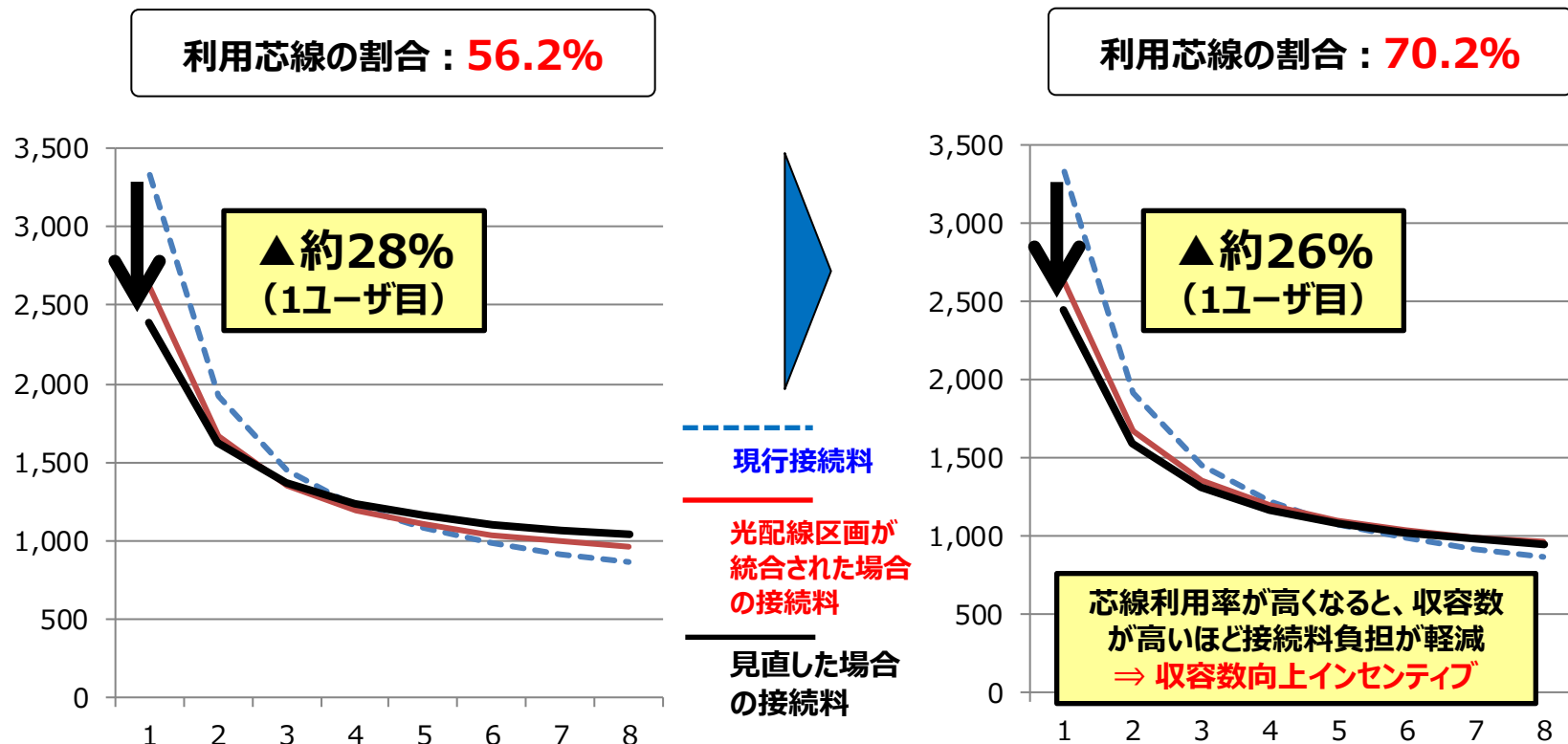
利用芯線の割合：70.2%※



*利用芯線の割合が56.2%から70.2%に増加した場合の芯線増加数（平均收容数：1）を加味して接続料水準を試算。

※理論上効率的な芯線利用率。接続政策委員会（第23回）NTT東西のプレゼン資料より。

費用負担方法の見直し効果（まとめ）



新規参入促進と光の利用率向上に資する見直し

非効率な設備構築は助長しない

*グラフは1ユーザ当たりの接続料。H26年度NTT東の接続料をベースに算定（主端末回線、分岐端末回線、屋内配線、回線管理運営費）

電柱・土木設備の配賦基準の不整合解消

メタルと光の配賦基準が「**契約者数比**」



光の中の配賦基準も「**契約者数比**」に



配賦基準の不整合に伴う
接続料負担のアンバランスを改善

まとめ

設備投資インセンティブを
阻害しない範囲

社会的経済的な
合理性の範囲



光配線区画の拡大効果をベースに見直しが必要
未利用芯線等の費用負担方法の見直し



新規参入促進と光の利用率向上に寄与